

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第24週（令和7年6月9日～令和7年6月15日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- 第24週は、ダニ媒介感染症である、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）と日本紅斑熱の報告がそれぞれ1件ありました。いずれの疾患も、病原体を保有するマダニに刺されることで感染します。また、SFTSは、SFTSを発症している動物に咬まれたり、その動物の血液等の体液に直接触れることで感染する場合があります。春から秋は、特にマダニの活動が活発になるため、草むら等マダニが多く生息する場所に立ち入る際には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を減らし、忌避剤を使用しましょう。吸血中のマダニに気づいても無理に引き抜かず、医療機関（皮膚科等）で処置（マダニの除去、洗浄等）をしてもらいましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	19	322	234	5,737
腸管出血性大腸菌感染症	4	63	48	684
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	1	2	10	68
日本紅斑熱	1	4	26	169
レジオネラ症	2	25	58	805
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	41	15	633
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	40	25	713
後天性免疫不全症候群	1	18	5	343
侵襲性肺炎球菌感染症	8	88	56	2,096
梅毒	19	354	181	6,010
百日咳	111	1,508	3,044	28,553

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル（※）

：注意報レベル（※）

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	75	0.61	0.87	3,544	0.92
インフルエンザ	56	0.46	0.93	1,415	0.37
急性呼吸器感染症	5,582	45.75	0.89	231,814	60.24
RSウイルス感染症	12	0.17	0.67	590	0.25
咽頭結膜熱	72	1.03	0.89	1,690	0.72
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	313	4.47	1.05	7,684	3.26
感染性胃腸炎	600	8.57	0.92	15,247	6.47
水痘	37	0.53	1.85	1,100	0.47
手足口病	26	0.37	2.60	444	0.19
伝染性紅斑（警報レベル）	159	2.27	0.69	5,370	2.28
突発性発しん	41	0.59	1.05	800	0.34
ヘルパンギーナ	156	2.23	1.44	447	0.19
流行性耳下腺炎	10	0.14	2.00	230	0.10
急性出血性結膜炎	0	0.00	－	29	0.04
流行性角結膜炎	6	0.23	0.43	635	0.91
細菌性髄膜炎	0	0.00	－	14	0.03
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	22	0.05
マイコプラズマ肺炎	8	0.53	2.67	243	0.51
クラミジア肺炎	0	0.00	－	2	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	4	0.27	0.44	70	0.15

（※）令和7年第15週からの定点医療機関の減少等に伴い、従前の警報及び注意報の基準値を直ちに当てはめることはできません。そのため、国が警報及び注意報の取扱いを検討することとしています。取扱いが示されるまでの間、本県では従前の基準値で運用することとします。

⚠️ マダニにご注意ください ⚠️

春から秋にかけての季節は、マダニの活動が特に活発になります！

病原体を保有するマダニに咬まれることで、**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)**、**ダニ媒介脳炎**、**日本紅斑熱**、**ライム病**などの感染症にかかることがあります。山や草むらでの野外活動の際は、下の4つを参考にして、マダニに咬まれないようにしましょう。

(これらの予防方法はツツガムシに咬まれて感染するつつが虫病の予防にも有効です。)

1. マダニの生息場所



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



半スポンやサンダル履きは不適当です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、**スポンの裾**に靴下を被せましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。

シャツの裾はスポンの中に入れてみましょう。

農作業や草刈などでは**スポンの裾**は長靴の中に入れてみましょう。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

4. 忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤（虫よけ剤）が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。

忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。



出典 国立感染症研究所昆虫医科学部

ダニに咬まれたときは無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（ダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

